

「緑の党」結成総会に提出する決議案

提出者：細野剛（奈良県奈良市）

### 北東アジアの民主化に関する決議（案）

わたしたちは、沖縄の米軍基地の段階的縮小を基本政策の中で求めています。また、同じ基本政策の中で、北東アジアの非核化・平和化を推進すると述べています。これら2つの政策は、互いが互いの前提をなすものです。

ところで、米軍基地や核のさらに前提には何があるのでしょうか。ひとつの大きな要因として、北東アジアには権威主義的な体制をとっている国があり、民衆を抑圧していることがあります。権威主義者たちは、民衆抑圧がもたらす歪みが彼らを失脚させることがないよう、軍事的緊張を煽り、世界の目を真の問題から背けさせています。このような権威主義者たちの行動を口実にして、アメリカは、沖縄をはじめとする北東アジアに軍隊を駐留させています。

わたしたちの基本政策を実現するためには、北東アジアに残る権威主義体制を民主化する必要があります。しかし、これらの国の民主化は、わたしたちではなく、それぞれの国の国民によって担われるべきものです。わたしたちにできることは、民主化のために戦う人々を支援することです。そのために、緑の勢力だけではなく、ひろく民主化勢力全体と連携をとることが必要です。

このことは、容易なことではありません。北東アジアの民主化運動をめぐる情勢は、国内的にも国際的にも、非常に複雑なものです。わたしたちは、慎重な検討の上で、民主化支援を行わなければならないと考えます。

総会は、全国協議会・運営委員会に対し、「北東アジアの民主化推進」を基本政策に盛り込むことを検討するよう要請します。また、この検討の結果を次回総会に報告・提出することも要請します。この検討には、北東アジアの民主化を求める各種団体との予備的接触も含まれます。

平和は共生の一番大事な前提条件です。わたしたちは、その平和のために、ひとりひとりの小さな努力を集めて、大きな力にしていきたいと思えます。